

学力等の諸調査結果について

1 英語検定について

英語検定に関する状況調査の結果

令和6年度 (令和7年3月の状況)	○ 令和6年度における中学校1年生の5級以上の取得率は59.8%、中学校2年生の英検4級以上の取得率は67.1%、中学校3年生の英検3級以上の取得率は49.3%でした。国の第3期教育振興計画における目標「中学校卒業時にCEFR A1（英検3級相当）以上を達成した生徒50%以上」には至りませんでした。国が実施する「英語教育実施状況調査」におけるCEFR A1（英検3級相当）以上を取得している中学校3年生の全国値27.9%（令和5年度調査）を大きく上回っていました。
----------------------	---

※ 今後も各小学校における1・2年生の英語活動、3・4年生の外国語活動、5・6年生の外国語科、各中学校における外国語科（英語）及び英語表現科をととした英語教育の充実に努めます。

2 学力調査について

全国学力・学習状況調査の結果【生活習慣に関する項目】

令和6年度 小学校6年 中学校3年	○ 「朝食を毎日食べていますか」の質問では、小学校での肯定的な回答が95.8%と全国・県平均を上回り、中学校は92.3%と全国平均をやや上回りましたが、県平均をやや下回りました。 ○ 中学校において、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」では、肯定的な回答が、87.3%と全国平均・県平均を大きく上回りました。
-----------------------------	---

※ 望ましい生活習慣を身に付けた児童生徒を育成するために、今後も家庭や地域との連携に努めます。また、「えびの学」を中心として、ふるさとを愛し、ふるさとに自信と誇りをもつ児童生徒及び地域に貢献しようとする気概をもつ児童生徒の育成を目指します。

全国学力・学習状況調査の結果【国語・算数/数学】

令和6年度 小学校6年 中学校3年	○ 小学校については、国語、算数ともに、全国及び県の平均をやや下回っていました。 ○ 中学校については、国語・数学ともに、県平均を上回っており、全国平均をやや下回っていました。数学においては、県平均を5.0ポイント上回っていました。 ○ 小・中学校ともに、全教科において、無解答率が全国及び県の状況と比較すると低く、粘り強く取り組んでいるものの、国語の記述式の問題については、全国及び県の正答率を下回る傾向が見られました。中学校の数学では、選択式・短答式の問題において、全国平均・県平均をやや上回っていた。 ○ 小学校の国語では、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することに課題が見られました。中学校の国語では、文章と図を結びつけ、その関係を踏まえて内容を解釈することに課題が見られました。算数・数学ともに「図形」の領域において課題が見られました。小学校の算数では、球の直径の長ささと立方体のいっぺんの長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことに課題が見られました。中学校では、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題が見られました。
-----------------------------	---

みやざき小中学校学習状況調査の結果

小学校（小４）【国語・算数】

中学校（中１）【国語・社会・数学・理科・英語】

令和６年度 小学校４年 中学校１年	○ 小学校については、国語・算数ともに、県平均をやや下回っていました。「読むこと」の領域の問題において課題が見られました。算数では、数と計算などの「基礎」は、目標値に対して同程度であり、「活用」は、目標値を下回っていました。「データの活用」の領域においては、県平均を上回っていました。 ○ 中学校については、社会では、県平均をやや上回っていました。国語、数学、理科は、県平均にほぼ同程度の結果であるが、やや下回っていました。英語において、県平均を下回っていました。
-------------------------	--

えびの市総合学力調査「みなほ」の結果

小学校（小１～３）【国語・算数】、（小５・６）【国語・社会・算数・理科】

中学校（中２）【国語・社会・数学・理科・英語】

令和６年度 小学校１・２・３・５・６年 中学校２年	○ 小学校については、低中学年の国語、算数において目標値を上回っており、良好な状況でした。高学年では、国語において目標値を上回っていました。 ○ 中学校２学年については、調査対象の５教科全てにおいて、目標値を上回っており概ね良好な結果でした。特に、数学においては、目標値と全国平均値を大きく上回っていました。
---------------------------------	--

※ 調査対象の学年や教科に限らず、児童生徒の学びの姿を示す「ひなたの学び」を意識した授業改善を推進します。「主体的・対話的で深い学び」を通して、粘り強く問題の解決に取り組もうとする態度の育成に努めます。また、単元末や学期末の学びの見届けや学年末の学びの確認などによる学習内容の定着や習熟を図るために、学校の組織的な取組の充実に努めます。

３ 新体力テストについて

新体力テストに関する調査の結果

令和６年度 小学校１～６年 中学校１～３年	○ 小学校第５学年については、男女ともに「長座体前屈」「反復横とび」「20mシャトルラン」「50m走」「体力合計点」において全国平均平均を上回っていました。 ○ 中学校第２学年については、男女ともに「長座体前屈」「反復横跳び」「20mシャトルラン」「体力合計点」において全国平均を上回っていました。男女ともに「立ち幅跳び」に課題が見られました。
-----------------------------	--

※ 学校ごとに各学年の児童生徒の体力・運動能力の実態に基づいた「スクールスポーツプラン」を作成し、課題のある項目について重点的な指導を行います。また、学校の教育活動全体を通じた計画的・継続的な取組により体力の向上に努めます。